



Since 1972.2.24

帯広西ロータリークラブ 第1959回例会 2012.8.2 会報



■RI第2500地区テーマ■

心と心、笑顔と笑顔、今奉仕のために行動を起こそう



■クラブ・テーマ■

学ぼうロータリー、訪ねようロータリークラブ

ゲスト

米山記念奨学生 カミングキード・キャサリンさん

8月の結婚祝い

萱場誠一会員、増井信也会員

8月の誕生祝い

堀 修司会員、奥田頼昌会員、古田敦則会員、小甲哲士会員

乾杯

林 文昭会員

会長報告

月頭 会長メッセージ(次頁掲載)

会務報告

- ・本日夜 新入会員オリエンテーション
- ・8月11日 夜間例会(JICAナイト)
- ・10月5~7日 RI2500地区・地区大会(北見)
- ・周年記念の御案内
 - 9月19日 北見RC 創立75周年
 - 9月23日 美幌RC 創立50周年

委員会報告

- ・広報委員会 **鈴木委員長**
会報掲載の会員原稿、再度のお願い
- ・国際奉仕委員会 **内海委員**
8月11日、菅井貴子さん講演会参加者が少し足りない状況ですので、一人でも多くの参加をお願いします。
- ・新世代奉仕委員会 **堂山委員長**
今年度ローターアクト若山貴弘会長の今年度テーマについてのメッセージを配布してありますので、ご一読下さい。チャリティ・ソフトボール大会とチャリティ・フリーマーケットの開催を今年度事業の柱としております。

プログラム(プロジェクト特別委員会) 神田龍一委員長

- ・今年度川田会長方針のひとつ「訪ねよう、ロータリー」を担当します。
- ・第6分区の外に出て、一人1クラブ訪問、バナー交換をして来ていただきたい。
- ・その際、当クラブ・バナーの制作趣旨を説明して下さい。
- ・後日、担当例会で訪問クラブのバナーと様子のご披露をお願いします。
- ・会長は張り切っていますので、皆様のご協力をお願いします。



ニコニコ献金(7月26日、8月2日分)

- 川田章博会員 ガバナー公式訪問。お礼。
- 三野宮功会員 全日本空手道連盟剛柔会。全国大会(幕張メッセ)で審判を務めた。
- 大友広明幹事 ゴルフ同好会で自己ベストスコア 34・34 6バーディ 68
- 上野裕司会員 ゴルフ同好会コンペで優勝。2日目は真ん中賞獲得。
- 古田敦則会員 本日、会長代理デビューです。
- 松見喜明会員 新入会員卓話をします。今後よろしくお願いします。
- 工藤正宏会員 同上。
- 立崎貴之会員 同上。初めてニコニコ献金の披露をさせていただきます。

ボックス献金

増井信也会員 結婚祝いのお礼。

2012年 8月 会員増強及び拡大月間

ニコニコ 献金	8月2日	20,000円
	累計	151,000円 (8月2日現在)



会長 川田 章博 副会長 岡田 武穂 会場監督理事 上垣香世子 発行：広報委員会
幹事 大友 広明 副会長 古田 敦則 プログラム委員理事 河西 智子 委員長 鈴木 享 (副)本田美喜男



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

8月の会長メッセージ

今年度川田会長は、毎月月頭に「会長メッセージ」を会員みなさんにお伝えします。
8月は残念ながら例会出席ができませんので、古田副会長が代行します。



会長報告

古田敦則副会長

川田会長が不在ですので、代行デビュー戦です。ここに立つことは、考えていた以上に緊張するものです。精一杯努めます。

本年度川田会長はロータリーの二つのバックボーンである親睦と奉仕の両輪をバランスよく回していくことが肝要であると考え、とりわけクラブにおける奉仕活動の在り方をいま一度根本的に見直す事を目標とされています。その大きな柱として、次週8月11日に 国際奉仕委員会による移動例会「JICA ナイト」が開催されます。

以前当クラブでも移動例会で帯広の施設を訪問した事もありますので、ご承知かと思いますが、JICAは独立行政法人国際協力機構の通称であり、日本の政府開発援助ODAとして、開発途上国の研修員の受入や青年海外協力隊の派遣などの技術協力や、有償無償の資金協力といったさまざまな国際協力事業を行っています。東京本部の他、日本国内に17の施設を持ち、年間約1兆1000億の事業規模でその活動を行っています。

JICA北海道帯広センターは、市民参加型の国際協力を推進し、北海道の多様な技術と経験を途上国の「人づくり」「国づくり」に役立て、同時にそれらの人々との「心のふれあい」を育むために、道東の国際協力の拠点として、1996年4月、札幌国際センターとともにオープンしました。平成22年には54か国294人の研修員を受け入れ、累計3900人を超えるまでになりました。地域では、アジアが全体の半数を占めていますが、近年アフリカからの研修員が増加しているそうです。これらに加え、開発教育支援プログラムによる地域との交流等、この十勝帯広の国際交流や協力の拠点として貴重な存在となっています。さらに、JICA帯広で学ぶ人たちが、世界の新興国の今後を担っていく人材であることを考えると、こうした方々と十勝帯広が接点を持つという事は地域の国際戦略の上でも極めて重要な意義を持つものであると考えます。

しかし、今事業仕分け等の影響からこのJICA帯広そのものの統廃合が議論され、今後の存続が危ぶまれる状況にあります。その意味で、私たち自身が改めてJICAの地域における存在意義を再認識し、その必要性を自ら発信していく事は、その存続のために必要不可欠な条件となると思います。今回の例会はそのスタートとしてとらえ、各関係団体の方々と接点を持ち、存続に向けて私たちができる事について「クラブ」として「個人」として考える場にしたと考えています。クラブの皆様には、第1部の講演会も含め一人でも多くの方々にご出席いただきますようお願いいたします。

さて、もう一つ、本日の例会はプロジェクト特別委員会による例会となっております。

このプロジェクトも川田会長のかかげられる本年度の当クラブのテーマ「学ぼうロータリー、訪ねようロータリークラブ」の中核を担う事業であります。クラブ会員全員が一步外に出て、色々なクラブを訪ねそれを体感する事により、当クラブの新しい可能性や未来が見えてくるのではないかと考えます。どのクラブもそれぞれの成り立ち、背景、規模による智慧をもって運営されています。そこに行って初めて分かることが沢山あると思います。

いろいろなクラブに行って、引き出しを増やしてこよう、ということです。それはきっと我がクラブの将来に智慧としてつながってくると思います。

今は何もかかげられていない全国各地のパナーが年度末には壁いっぱいになっている事を願い、会員の皆様にご協力をお願いいたします。

立崎貴之会員

私が結婚を決めた時。それは24歳の時です。友人とスキーに出かけたものの数時間で怪我をしてしまいました。肩の靭帯切断、鎖骨骨折です。即入院となりましたが、スキーで一緒だった友人さえ見舞いに来てくれません。そんな折、札幌にいた女性が休みを潰してはるばる帯広までお見舞いに来てくれたのです。

病室でいつも以上に寂しさが募っていたこともあって、とても嬉しくなり、そこでこの女性と結婚しようと思えました。あれから20年、あの時の決断は間違っていなかったといまも思っております。

工藤正宏会員

大学進学後、剣道部に入部しました。実は知らなかったのですが、我が大学は強豪校であり、しかも一緒に入部した同級生はレギュラークラスの実力者たち、先輩はもちろん、それ以上の全国クラスの実力ですから、弱い私は雑用ばかりをすることになりました。でも悔しさからやる気が湧き、練習に頑張りました。

その年、東京の武道館、全日本学生選手権に出場しましたが、そこで見た決勝戦は激しく衝撃的で、これは選手にならない方がいいと思ってしまい、以来3年間、見事に補欠の座をキープし続けました。しかし、厳しい環境で随分と鍛えられました。

帯広に戻って、今度はJCでは多くの先輩に鍛えられました。剣道4年、JC9年、この13年が今の私のバックボーンになっております。

松見喜明会員

毎日、ロンドン・オリンピックをテレビで見いております。流石にオリンピック、リアリティを感じることがあります。女子重量挙げの三宅選手は、北京で敗れた後、父の指導から離れ、自分で練習メニューを作り、それを実行したそうです。自分が本当にやる気になった時に、本当の前向きになり、自分でプログラムを作って取り組むということになるのでしょう。

また、水泳の北嶋康介選手は敗れましたが、柔道の金メダリスト 古賀さんが彼の頑張りを讃えて、裏付けのないプラス志向ではなくマイナスを想定していることの大事さ、いくつもの修正パターンを持っているかの偉大さについて話しておりました。

仕事にあって景気や環境は悪いとしても常にリスク要因を想定して周到な準備が必要であることを考えさせられました。

◆マラソンの最も早い記録をご存じですか？

男子の世界最高記録は、ケニアのマカウ選手で2時間3分38秒です。

日本最高記録は、高岡寿成選手が作った2時間6分16秒です。

◆では、最も遅い記録をご存じですか？

記録の裏にはこんな微笑ましいエピソードがあります。

日本の「マラソンの父」と称される金栗四三という選手がおられました。明治44年(1911)、当時の世界記録を出し、日本人初のオリンピック代表選手となります。迎えた翌45年(1912)のストックホルム五輪でのマラソン競技当日。

この日のストックホルムは気温40℃を越す記録的な暑さ、レースへの参加者68名中、半数が途中棄権をし、内1人は翌日に亡くなるという過酷な状況だったのです。金栗選手も同様に、レース途中、日射病で意識を失い近くの農家で介抱されます。目を覚ましたのは翌日の朝。既に競技は終わっています。

金栗選手にとって不運だったのは、当時、日本からスウェーデンへは船や列車を乗り継ぐ旅で、約18日間もかかり、さらにマラソン競技当日、金栗選手を迎えに来るはずの車が来ず、金栗選手は競技場まで走って行ったのです。

こうして、結果的には途中棄権で金栗選手のマラソン競技は終わりました。

ちよつと
ひと休み



ところがスウェーデンでは、金栗選手がマラソンコースの途中にある町、ソーレンツナのある家庭で、お茶とお菓子に誘われご馳走になり、そのままマラソンを中断したのだ、ということになってしまっていて、競技委員会では「金栗選手が行方不明になった」として騒然となり、「消えた日本人」として金栗四三の名が刻まれたのです。

さて、その後、日本のマラソン発展に数々の功績を残し、正月の箱根駅伝を創設した金栗四三さんは昭和42年(1967)3月、スウェーデンのオリンピック委員会から、ストックホルム五輪開催55周年を記念する式典に招待されます。記念式典の開催に当たり当時の記録を調べていたオリンピック委員会が「行方不明」に気付き、「是非とも金栗選手にゴールしてもらおう」と記念式典でのゴールを計画したのです。

招待を受けた金栗選手は55年振りにストックホルムを訪れ、競技場内を走り、用意されたゴールテープを切ります。ゴールを果たした瞬間、「日本の金栗がただいまゴールをしました。タイムは54年8か月6日5時間32分20秒3。これをもって第5回ストックホルム大会の全日程は終わりました」とアナウンスされました。

これに答えて金栗選手は「長い道程でした。この間に孫が5人できました」とユーモア溢れるスピーチをしたそうです。

こんな粋な演出やおしゃれな会話、スピーチをしたいものですね。



2012-1-5

「お正月に 白いバットマン 現れる」

ティッシュペーパーでしょうか、何げなく置いたところバットマンの顔になっていた。お正月早々バットマン。今年は強力な用心棒がいて、久保家をご安泰でしょう。

2012-3-16

「雪がとけ スピード違反を にらむ顔」

道路脇の雪山が解け始めた3月、気がついたら怖い顔のようになっている。

まるでスピード違反の車を睨んでいるかのようです。



2012-5-14

「花びらが 蜘蛛にかかって シーサーが」

蜘蛛の巣の糸に桜の花びらが引っ掛かっていたけれど、よく見ると庭の石とコラボして、まるでシーサーのようです。これも久保家を守っているかのようです。

委員会だより

求む！会員。目指せ 会員70名

本年度の会員増強委員会の目標は70名の会員、仲間を作ることです。

共にロータリーを楽しみ、奉仕を实践出来る会員を捜し出しましょう。

新年度より、ロータリーソングのCDを編集作成、歌詞と共に配布する事と致しました、君が代を含め、6曲を入れ、エンドレスですので一度は車の中でも聴いてみては如何でしょうか、ご希望の会員には無料で配布させて頂きます。

すでに実施していますが、新会員入会時には垂れ幕で歓迎し、更に会場に入る際には、スタンディング・オベーション、拍手で出迎え、入会記念として会長、推薦者と共に写真を撮り、記念盾として入会月日を入れて贈ります。

そして退会者を阻止する活動もしていきますので、情報交換、提供を御願いたします。

会員推薦資料を準備していますので、何時でも申し出てください、2012年内には何としても、2~3名をリストアップしたいものです。

会員皆様の御理解と、御協力を御願いたします。

会員増強委員会 委員長 平田 利器